令和元年度　大田区立大森第二中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

本年度は、各学年4学級計12学級の生徒数470名（4月現在）、相談学級2学級の規模である。教職員は54名（教員27名、事務・栄養士2名、講師9名、スクールカウンセラー3名、支援員7名）で構成している。
本校では、小・中のスムーズな連携をめざして、小学校3校との学校間交流を協力して進め、授業研究・わくわく体験・体験授業・生徒会による学校紹介・小中合同ボランティア活動等の行事に取り組み、生徒一人一人の個性と適性を把握し、伸張を図っている。
また、学校支援地域本部により二中応援団としてさらに活動を広げている。部活動を始めとし、生徒の様々な活動の場で保護者と地域が連携し応援している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が80%以上	4：	80 4	〈外国語教育〉 ALTによる英語カフェを効果的に活用し、生徒のコミュニケーションの育成に努めている。 ALTの授業や昼休みの英語カフェの活用をすることで、コミュニケーションへの意識をもたせることができた。 〈ICT機器〉 　学校の設備としてICT機器はすばらしいものではあるが、自分に使いこなす力が足りず、使用することができなかった。研修の機会を活用して自己の学びを広げていく必要がある。 教員が使用する場合は、設備がしっかりしており、簡単に取り組み実践することができる。デジタル教科書等を使用することにより、学習に課題がある生徒に対して、より授業の効果をあげることができると思う(教科書のどの部分を見るか、などの指示が徹底できる点)。 一方で生徒が利用する場合はタブレットを相談室から持参しなくてはならず、個人のIDもわかりにくく準備等の点から不便といえる。 またICTを使うことが必ずしも効果があるとは限らないため、その時々に応じて使用することが必要である。 理科ではタブレット内のミライシード等ソフトを活用し、クイズ形式で復習などを行うことで学習意欲の向上に取り組んだ。全体としても多くの教科でデジタル教科書の活用をし、学力の定着、意欲の向上に取り組んだ。 まだ生徒用タブレットを活用しきれていないため取り組めていないので、生徒用タブレットの活用方法も含め授業に取り入れられるようにしていく。 毎時間の授業でデジタル教科書を使用してる。 ICT機器を2回に1回は授業で活用できた。 音楽科の鑑賞の授業において、模範演奏や画像をみせるなどして、関心をもたせたり、生徒の意見をすぐに画面に表示することで、活発な意見交換ができ、生徒が意欲的に取り組むことが出来た。 ・単元によって、使用する頻度にばらつきが出る。使うことを目的とするのではなく、どのように使えば効果的かを考えていかなければならない。 ICT機器はほぼ毎回の授業で使用し、視聴覚の点において効果的な指導ができている。 ・普通教室に設置してある書画カメラや電子黒板などを利用し、授業を行うことができた。 美術科の鑑賞の指導において、ICT機器を使用して参考作品を鑑賞したり、完成した生徒作品を鑑賞したりする活動を行ったことで、生徒は意欲的に学習に取り組んだ。 〈体力テスト〉 運動会など全教職員で取り組めた。 ・休み時間中の運動を奨励したり、1月に行われるオリンピック・パラリンピック教育「DANCE BOX」において、リズムに合わせて体を動かすことの意義や楽しさを指導する。 ・運動部に関わる教員は体力向上を意識していると思うが、そうでない教員にはその意識はないと感じる。	・昼休みの英語カフェは良い取り組みだと思うが参加しているという話が聞こえないのが残念です。 ・DANCEBOXなどのオリンピック・パラリンピック教育や思いやりプロジェクトの女子ホッケーなどを体験して、今までスポーツや体を動かすことに興味がなかった生徒も今までより興味を持つことができたと思う。 ・「一校一取組」「一学級一実践とは？。どのような目標があるのでしょうか？。例があれば教えてください。 ・学校全体で取り組んでいることは伝わりますが、現場の準備や活用はできていたのか不安が残りました。（現場＝先生や生徒） ・先生方が忙しい中、いつ勉強して、いつ導入するのでしょうか。頭が下がります。 ・ニュースでも取り上げられていたが、運動会での走り方を見ても子供たちの運動能力が落ちているのを感じる。小学校での指導がより大切だとは思うが、体力が寄りつく時期の中学校でも、体力向上の意識は持っていてほしい。 ・ICTが万能だとは思わないが、せっかくだから最大限有効に活用できればありがたい。 ・外国語は実用性を伸ばしてもらいたい。 ・ICTの活用については、不慣れな亜先生もいらっしゃる一方で「学習に課題のある生徒に対してより効果を上げることができる」等、使用することにより以前よりわかりやすい授業ができているのは素晴らしいです。使うことを目的とするのでなく、これからもどう使えばよりよい授業ができるかを、先生方で情報共有しつつ深めていっていただきたいと思います。 ・体力向上に向けた意識の一層の醸成に期待します。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が70%以上	3：			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が60%以上	2：			
				「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が60%未満	1：			
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4：	86 4	〈学習カルテ〉 学習カルテも用いて学習方法についての指導を行った。ただ、学習カルテよりも定期考査の結果のほうが指導には活かしやすい。 夏休み期間の三者面談にて、保護者と共に学習の現状や計画について話し合うことができた。 ・夏の面談の際に活用することができた。 面談資料として学習カルテを使用し、個人の得意不得意を把握することができている。 ・三者面談等を通して、学習状況の確認や今後の取り組み方などの改善策を話し合った。 〈ステップ学習〉 定期考査毎に学習チェックシートを回収し、学力の到達度を把握した。また。その後家庭に返却できている。今後も継続していく。 ・ステップ学習を授業内で行うことは時間の関係上難しいので、宿題として行わせている。 〈補習〉 数学、英語の補習の働きかけについては、教科でなく、担任でないので特に働きかけはしていない。 　補習に関しては、受講のよいところ等生徒に話して勧めたが、PRとしては弱かった 特に学習に課題が見られる生徒に関しては保護者や本人に受講を進めた。しかし、実施内容が不透明で質問されても十分な回答をすることができない場面も多々あった。また受講している生徒からは、「ただ話をしているだけ」などという意見も聞こえた。どのように実施しているのか、また参加状況などを教員間で理解を深めていく必要を感じた。改善策としては、教員に向けての情報開示を行うことである。 プリントを配布したり、面談でよびかけた。 〈授業改善プラン〉 　授業改善プランについてはよりよい授業をを目指して確認をすることができた。また、自分の考えをまとめて確実に相手に伝えるために、発表や作文の機会を多く作り、学力向上への契機とすることができた。 意識して授業を計画、実行したが、効果を実証できるだけの各省は得られていないのが現状である。 2学期以後の授業で取り組んだ。 〈確かな学力〉 論述の機会は、教科では自由研究や実験レポートを通じて行い、総合では職場体験の事後学習で行った。 授業中には積極的に自分の意見を発言する機会を設けている。また挙手することが苦手な生徒もいるため、自分の意見を論理的に説明できるように個人−グループ−全体−個人というサイクルを常に意識して授業を実施することができた。より向上を目指すための改善策は、レポートや自分の意見を発表するだけでなく、異なる意見の中でどのように論理的に相手を説得できるかなどのディベートにども実施したい。しかしか授業数、学習内容の関係上、時間的制約が厳しいという現状がある。 音楽科の鑑賞の授業において、多数の作品の中から生徒が1作品を選び、作品の良さ、自分の好きなフレーズを明確な理由と共に、クラスメイトにプレゼンテーションさせる時間を設けた。普段あまり自分の意見を発しない生徒でも、自分なりの意見を自らの言葉で表現することができた 英語科の授業では、単に文法を学習するのではなく、自分の考えを英語で伝えられるように意識をして授業を進めている。 ・夏季休業中で理科の自由研究を課題とし、その研究報告を授業で行った。 美術科の表現活動においては、作品が完成した際自分の作品で伝えたいことについて記入する振り返りの時間を設けている。鑑賞活動においては、クイズ形式で作品を鑑賞することで、造形的な視点を働かせながら自分の考えをまとめる時間を設けている。これらの活動により生徒の学習意欲は高まり、確かな学力の定着に繋がっている。	・学習カルテを用いての三者面談は、個人の得意・不得意を確認しながらの相談がしやすかった。 ・数学・英語等のクラス分け・個別指導などは良いと思います。 ・定期テストだけでなく、各単元の小テスト等充実してくださるとありがたいです。 ・補習授業について充実させるための今後の働きかけ、生徒自身の自覚などが課題であると思います。 ・先生方が子供たちがより興味を持つような授業をしようと努力されているとお思います。 ・大変努力していただいていることを感じる。 ・一定の水準を保てば個性を伸ばすことも取り組んでほしい。 ・自分の考えをまとめて論述したり発表したりすることは大人になるまでに誰もが身につけていきたい力だと思います。英語・理科・音楽・美術・総合等の授業においてこれらに意識的に取り組んでいるのはとても良いことだと思います。 ・到達度を保護者に伝える取組ですが、中学校の先生方は担任以外の方もいることから全員で取り組む困難さがあることから「2．5」という数から読み取れます。ご苦労様です。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3：			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2：			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1：			
		自分の考えをまとめ論述したり発表の機会を設けることで確かな学力の向上を目指す。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。					
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4：	84 4	〈生活指導〉 　学校のルールをしっかり意識させていくために継続的な説明、指導が必要であり、また、指導する立場の教員全員がきちんと把握するための統一されたマニュアルが必要である。 1年生は特に小学校からの生活の違いに戸惑うことも多かったように思うが、ルールの理由や学校は学習の場であることなどを明確に示し、理解を求めていくことができたと思う。改善策としては、小学校からの違いを埋めることは困難であるが、定期的に互いの違いを理解できるような教員間の取組をもつことは有効かもしれない。 毎回の授業の開始時や、学年集会の時など、話を聞く姿勢や服装の注意を徹底して行った。また、出来ていない生徒には粘り強く指導した 生活指導部会で、生徒の問題行動について意見交換があり、始動へ向けての助言をもらうことができている。今後も報告漏れのないようにしていく。 ・小中合同地域清掃などを通して、社会のルールや地域貢献をする活動を行うことができた。 〈道徳指導〉 〈学校生活調査〉 教員個人による差が大きい。どのようにすべきか、という明確な正解はないところが難しいと感じる。 ・メンタルヘルスチェックは非常に有効であると考えるが、ハイパーQUテストもあるので、どちらかでよいと感じる。 〈いじめ防止〉 規範意識や自己有用感は、日々の生活の中での出来事をとらえて指導を行っている。道徳の授業内でも、いじめや友人関係について触れる機会が持てた。いじめのケース会議は、必要となる機会については行ったが、対応は基本的に担任が行った。 ・いじめについては、保健室来室時には、その症状が器質的なものか心因的なものかを見極めつつ、問診を行った。心因的な生徒は頻回来室する傾向にもあることから、頻回来室する生徒に対しては信頼関係を崩さないよう慎重に受容・共感を図った。 また、校内巡視を通して、教室での過ごし方やどのような人間関係であるのかを把握した。 ・いじめアンケート等を実施し、いじめの早期発見に向けて取り組んだ。 ・問題行動や不登校生徒の動向を週1回の生活指導部会に議題として挙げ、職員会議等で全体に周知を行った。 〈ケース会議〉 　ケース会議については主体がどこにあるのか、明確にする必要がある。 学年所属の全教員に情報が伝わることはまれであり、報告、連絡、相談は徹底されていなかったと思われる。口頭だけではなく、面倒であっても書面での報告書をきちと残していくことが今後の改善策である。 〈学級集団〉 生徒は管理される側ではなく、一個人として尊重することを第一に心掛けていた。今後も実施していきたい。	・小中合同地域清掃や夏休み中の小学生体験で先輩として小学生と一緒に活動できて良かった。 ・ボランティア清掃・防災拠点活動はたくさんの生徒さんがいてくださりましたが、交通の見守り、町の行事のお手伝いなどは少ない気がします。 ・先日、保護者から相談を受けました。あるアンケートを採ったときに無記名で記入とあったが、出席番号を書く欄があった。出席番号イコール記名ではないか？とのこと、取り扱いには十分注意が必要なはずが、人物を特定され、事情を確認し、指導を促すやり方では、円満解決どころか関係が悪化します。やり方を変えなければ、本音を話すことはなくなると思うし、解決したと思うのは表向きだけだと思います。 ・道徳・人としての生き方など大人、年配者の方々の話を聞く機会を設けてみてはいかがでしょうか。 ・不登校に関して会議を実施するだけでなく、何か成果が上がる方法はないでしょうか。 ・先生方が丁寧に接してくださっていると思います。 ・生徒たちを見ると乱れている様子はないが、将来により豊かな心を持てるための素地を持たせたい。 ・いじめ防止・早期発見の取組として、「定期的な学年会議の実施」とありました。近隣の小学校では週2回生活指導に関する情報交換の会を持つようにしているとのことです。中学校では、部活や進路指導・不登校対応等多くの仕事があり、時間をとるのが難しいのでしょうね… ・「思いやり」を大切にし、一貫した指導は尊い取組と思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3：			
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2：			
		問題行動・不登校問題等にかかわる生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1：			
		個々の生徒の課題を踏まえ、学習環境を整備しよりよい学級集団を作る取り組みをしている。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。					
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4：	74 3	〈早寝早起き〉 早寝早起きの指導や遅刻に関する指導、給食の残食などについては、それらの場面に触れる際に繰り返し行った。 　生活習慣意識啓発に関しては、掲示物を確認し、生徒への啓発もよくできた。また、学年通信を通じて保護者や生徒への呼びかけも行うことができた。 学級通信、学年通信等に載せることにより、保護者や生徒に周知していた。今後も続けていくことが効果的と思われる。 ・早寝・早起き・朝ごはん月間の取組については、保健委員会を中心に生徒への呼びかけやポスター作成、アンケート集計を行った。全校朝礼、生徒朝礼、学活を通して、健康面での意識づけをしている。給食指導も含め、生活面での指導をしている。 〈食育〉 　食育関しては、1学年での研究授業もあり、意識付けを行うことができた。これを機会に今後の給食指導に生かしていく。 意識して実施したが、やはり圧倒的に時間が少ない。準備時間を短縮することは難しい(中学1年生)。しかし時間をのばすことはできないため、改善策としては声掛け等しかないと思う。 日々の給食指導において、残飯が残らないように声かけを行うと共に、食や栄養素の大切さについて伝えられた。また、筋肉をつけるために必要な食事等については個別に運動部などに助言した。また、昼休み等に鍛えたい筋肉毎の効果的なトレーニング方法を教えた。 ・食育については今年度本校において食育推進委員会の授業を行ったこともあり、今後他学年や他クラスにおいても食育の充実を図っていきたい。 ・嫌いなものも残さず食べなさいと指導できない中で、食品ロスの問題など、日本が抱える問題は大きい。学校現場での指導の限界を感じる。 〈運動習慣〉 　運動習慣の確立としては、昼休みの時間の使い方等呼びかけを心掛けたが、より一層の働きかけが必要と思われる。 行事等への取組は声掛け、意識づけは行ったが、特別習慣の確立推進はしていない。 ・休み時間中の運動を奨励したり、1月に行われるオリンピック・パラリンピック教育「DANCE BOX」において、リズムに合わせて体を動かすことの意義や楽しさを指導する。 〈遅刻0〉 　遅刻に関しては個別の指導を通して再発防止を促していくことが必要である。 遅刻した生徒からは個別で話を聞き、再発がないように声掛けをしていった。あまりにも遅刻が多い場合には、保護者にも通知して協力をあおいでいた。 週番活動で取り組んだ。	・給食にて何度もおかわりする生徒がいるなどの話が聞こえてきますので、残飯が残らないようにするための声かけがよくできていると感じる。 ・さくらJAPAN・DANCEBOXなど生徒参加型の行事は見ていても楽しいものだった。 ・オリ・パラ境域の一環でDANCEBOXを取り入れたことは、指導の仕方を学べたほか、子供たちが楽しそうに行っていたことが印象的でした。 ・給食の残飯も含めなぜ必要なのか？どんなものがあるかを理解した上で行っていけば視野も広がるし、大切さも理解できると思います。 ・食育についての現場での限界とは？諦めずに進めていくことと思います。 ・体力の向上はもちろん、心の健康にもつながるのでスポーツを有効に活用してほしい。 ・オリパラ関連で「さくらJAPAN」を招いての取組は生徒にも心に残るものであったと思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。	3：			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。	2：			
		規則正しい生活を目指して遅刻0を目指す。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。	1：			
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4：	78 3	〈授業公開〉 　公開授業ではありのままの日常の姿を見ていただけるような授業を心掛けた。保護者からの意見や要望を聞く大切な機会として耳を傾ける姿勢が大切だと思う。 公開授業の時は意識して生徒の活躍の場を保護者に見せられるような授業を心がけてはいた。しかし授業評価については、どのように評価されているのかわからず、改善に生かすことはできなかった。定期的に研究授業ができるような校内研修をしたい。 常に自己研鑽の意識をもち、周囲からの評価をその後の指導に活かすことができるように意識している。 〈授業改善セミナー〉 教科のOJTに関しては、研修会という場面は設けず、授業準備の際に相談しながら行っている。学年の教員に関しては学年の出来事に触れながら適宜相談している。こういった時間が多く持てることが大切だと考える。 　夏休み中の研修は有意義なものであり、2学期以降の授業に役立った。 〈研究・研修〉 各種研究発表会の内容は、活かすことが難しいと感じている。現在見かける研究発表の多くは、地に足がついていない、生徒の現状に合わない内容が多いと感じられる。研究主題が生徒や教員のためのものになっておらず、研究するための主題になりがちである。 逆に、そうでない研究の場合の成果は、敢えて言うほどの成果ではないと感じたものもあった。研究そのものについて、考える必要があると思われる。 積極的に計画、実行して授業改善を目指すことができた。これからも意欲的に実践していきたい。 研修や研究発表会等の成果によって、授業改善を行った。また、ICT機器の使い方等についての技術の向上にも繋がった。 〈特別支援教育〉 〈運動会・合唱コン〉 　運動会、合唱コンクールについては、教育活動のすばらしい発表の場となっていると思う。2大行事に関しては教員全員がどちらかの特別委員会に所属して運営していくべきだと思う。 生徒にとっては、大きな行事であり、教育的意義は大きいと思う。一方で教員間の負担の違いには著しい差がみられる。改善策としては一部の教員だけではなく、全教員で取り組む組織づくりが効果的であると思う。また合唱コンクールにおける教員の出し物は減らすべき。 合唱コンクールでは、実行委員の生徒を中心に、生徒主体で練習を行わせ、本番では練習の成果を充分に発揮することが出来た。 合唱コンクール後の作文などから、生徒たちは達成感を得ることが出来たと感じた。	・合唱コンクールでの生徒主体の行事は、生徒たちにも達成感がありよいと思う。運動会でももっと生徒主体にしても良いと思います。 ・運動会・合唱コンなどは素晴らしいもので感動しました。 ・授業公開にともない、作品展を見させていただきました。各クラスの書き初め展はピロティなど大きな場所で1～3年展示していただくとありがたいです。（なかなか教室に入りづらく…） ・魅力ある公開授業にしていただきたいと思います。どれくらいの保護者が出席されているのでしょうか。イベント（運動会・合唱コンクール）だけでなく来ていただける学校にしてほしいと思います。 ・ほとんどのっせんせいが多はよく努力されていると感じる。 ・先生方の向上が子供たちに伝わっていると思う。 ・公開授業について「ありのままの日常の姿」を保護者に見てもらうのが大事だと思います。例えば授業評価がしやすいように「本日の授業のポイント」「ここを見てください」的なプリントを作っていただけると】授業の感想も書きやすいかもしれません。（また仕事を増やして…と叱られそうですが。 ・生徒と先生方との良いつながり、信頼関係を日頃から感じています。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。	3：			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。	2：			
		運動会・合唱コンクールは教育活動のよい発表の場となっている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1：			
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4：	67 2	〈情報発信〉 HPについては、担当が決まっているので、その方にお任せしている。 地域連絡協議会は、それにかかる時間のわりに、成果が薄い。地域の方にもできることに限界があるので、協力してくれる方にも申し訳ない。 〈地域教育連絡協議会〉 〈学校地域支援本部〉 〈キャリア教育〉 道徳地区公開講座を実施することで、地域とのつながりを大切にすることができた。 道徳地区公開講座を行った。担当者に現在の生徒の現状にあった題材を提供した。 ・地域の方々のおかげで、職場体験場所の確保ができている。 地域の協力なしでは職場体験は実施不可能であった。各事業所とのやりとりが円滑に進まなかったところは、振り返りを来年度に引き継ぐ。 〈ボランティア〉 ボランティア清掃などの活動を通して、地域の中で過ごしているという意識を生徒たちに伝えることはできた。今後は授業の中でも大田区や大森地区などのことを取り上げて、さらに地域連携などを意識させていきたい。 毎週ボランティア清掃と称し、地域の清掃活動に取り組んでいる。	・ボランティア清掃はとてもい活動だと思う。 （学校地域本部より） ・3／15日にあります吹奏楽コンサート案内ご近所に配布の件ですが、コピー配布いたします。 ・今年度理科の先生より授業で使う花の苗を育ててほしいといわれました。グランド側の花壇を毎年希望の花があれば植えることもできます。 ・6～7月の職業講話を授業公開に合わせられるとありがたいです。 ・防災訓練は地域の方とともに学べた場で、とても充実していました。地域はどこまで関わりを持つか不透明な部分もありますが、ボランティア清掃・グリーン・裁縫等も近所の方にもご協力していただけましたらさらに活性化されるのではないかと思います。 ・地域ボランティアに参加を是非してほしいと思います。まずは「社会を明るくする運動」からお願いしたいと考えます。 ・職場体験やガーデンパーティーなどで二中生のようすは地域でもよく見ています。 ・地域にもっと多くの人たちが二中に関わるようにしたい。地域との合同の作業やイベントが行えると良い。 +
		地域教育連絡協議会において、生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。	3：			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。	2：			
		地域と連携して職場体験などのキャリア教育や道徳地区公開講座などの教育を実践している。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。					
		学校・地域ボランティア活動の推進を通して地域・保護者との連携を図る。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。	1：			

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。